

【主な出来事】

- ゼレンスキー・ウクライナ大統領のミンスク会談提案に関するルカシェンコ大統領の公式声明(7/8)
- マケイ外務大臣、ケント米国務次官補代理と会談(7/10)
- ベラルーシWTO加盟交渉は2020年6月に完了する見込み(7/11)

大統領動静

●ゼレンスキー・ウクライナ大統領のミンスク会談提案に関する公式声明(7/8)

・ゼレンスキー大統領の提案を絶対的に支持する。武器の照準を通じて相手を見るのではなく、座席に着いて問題を解決する必要がある。

・参加国について、原則として、欧米諸国ではなく、スラブ三国(当館注:ロシア、ベラルーシ、ウクライナ)で解決すべき問題であるが、スラブ三国による解決が上手くいかず、また、ウクライナが他国の参加を求めると、他国の参加を支持する。また米国参加の必要性はこれまでも述べてきた通りである。米国抜きで同問題を解決するのは難しい。

・場所について、ミンスク以外にはない。戦争はベラルーシのすぐ側で起きている。ベラルーシは、これまで、そしてこれからも、平和交渉の場であることを名誉に感じている。

(7/8 大統領公式ホームページ)

●グレゴリー・ラポタ連合国家国務書記と会談(7/9)

ルカシェンコ大統領の発言は以下の通り。

・現状、解決無しでは統合など語れない問題がある。

・プーチン露大統領とは、連合国家創設条約を破棄するつもりはないということで合意している。条約破棄は、これまで掛けてきた時間を全て破壊することを意味する。条約の中に何か増えるのではなく、条約の追加文書を作成する。

・ロシアがベラルーシの一部になる、あるいは、ベラルーシがロシアの一部になるという重要な質問に対しては、そんな必要は一切無いと答える。

・ロシア側にも解決すべき問題がある。例えば、現在80社ものベラルーシ企業が、ロシアへの農産物納入

を禁止されている事態となっている。これはロシア農業管理局ないしロシア政府によるものである。このような関係が築かれている限り、統一通貨や連合国家の協議ができるはずがない。この種の問題を一掃する必要がある。

・ロシア企業とベラルーシ企業は同等の条件である必要がある。石油税操作問題についても、連合国家間はおろか、ユーラシア経済連合内においてもあってはならない事態である。

・問題は山積みであり、ラポタ国務書記には、連合国家のトップとして、管理して頂きたいと考えている。ベラルーシ・ロシア間の交渉は続いているが、ロシア政府は約束したことを忘れ、再度約束し、また忘れる、という事態が頻発している。交渉プロセスが止まりつつある。

・なぜ公の場でこの種の発言をするのか。それは、プーチン露大統領との会談が間近に迫っているからである。プーチン露大統領と7月17～18日にかけて Санктペテルブルクで会談する予定。あと数日で、何らかの結論を出す必要がある。

・ Санктペテルブルクでの会談ののち、プーチン露大統領とバラーム修道院に訪問予定であり、同訪問についてマスコミや野党より秘密合意が締結されるのではと噂されているが、これはプーチン露大統領の提案であり、ロシア正教の聖地を訪問するだけである。

ラポタ国務書記の発言は以下の通り

・ロシアとベラルーシの作業部会に、連合国家の常任委員会代表は含まれておらず、同作業部会内での合意・非合意事項に関する発言は非常に難しい。

ルカシェンコ大統領は、同会談後、外務省にロシア・ベラルーシの作業部会に連合国家常任委員会代表の参加検討を命令した。

(7/9 大統領府公式ホームページ)

内政

●ベラルーシにおける女性の社会進出状況

国家統計局が公表

- ・女性の就業率:84%
- ・女性の平均月給:928ルーブル
- ・女性事業家の割合:32%
- ・女性の失業率:3.6%
- ・未成年の子供のいる就業年齢女性の割合:60%
(就業年齢:20歳~49歳)

(7/11 ベラパン通信)

外交

●マケイ外務大臣、ケント米國務次官補代理と会談 (7/10)

両者はベラルーシ・米国二国間関係発展につき協議を行った。

(7/10 外務省公式ホームページ)

●オレグ・クラフチェンコ外務次官、米国エネルギー省一行と会談(7/10)

両者は、核不拡散や核の安全保障分野における協力を協議し、原子力エネルギーの安全利用に関する意見交換を行った。

(7/10 外務省公式ホームページ)

●ゼレンスキー・ウクライナ大統領、プーチン露大統領へミンスク会談を提案

ゼレンスキー・ウクライナ大統領は、「クリミア・ドンバス問題につき、トランプ米大統領、メイ英首相、メルケル独首相、マクロン仏大統領を交えた会談を行う必要がある。場所は、ルカシェンコ大統領が我々を喜んで迎えてくれるであろう」と発言した。

(7/8 ベラパン通信)

●ペスコフ露大統領府報道官、「(ゼレンスキー・ウクライナ大統領の提案につき)現時点では回答する準備はない。」

同氏は、「今回の提案は、完全に新しい形式であり、そのような会談に将来性があるのか、何を提供してくれるのかを理解する必要がある。米国はノルマンディ協議の参加国ではなく、ミンスク合意に署名をしていない。新しいイニシアチブであり、検討を要する。現時点では何も言えない」と発言。

(7/8 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●ベラルーシ、年初対比インフラ傾向

2019年6月の工業品の価格は2018年12月対比3.9%増、消費材の価格は、1.7%増、農業品は0.9%増。

(7/13 ベラパン通信)

●経済省、「ベラルーシ GDP、2019年第三四半期に成長拡大の見込み」

ドミトリー・ヤロシェービチ経済次官は、「ベラルーシマクロ経済と銀行セクターの概要」と題する会議で、同発言。期初予定では GDP4%であったのに対し2019年1~5月における GDP 成長率は1%であり、この成長鈍化の理由は、貿易戦争やロシア経済の成長鈍化、汚染石油の問題等、外的要因にあると指摘。一方、第三四半期からの成長の背景として農業セクターにおける景気回復や石油問題の解決を挙げた。

(7/9 ベルタ通信)

【対外経済】

●ベラルーシWTO加盟交渉は2020年6月に完了する見込み。

アレクサンドル・トゥルチン第一副首相はジュネーブにてロベルト・アゼベド WTO 事務局長と会談。同会談において、ベラルーシは WTO 交渉を2020年6月までに完了させる見込みである、と発言。

(7/11 ベラパン通信)

●2019年1～5 月ベラルーシ貿易高、昨年同時期
対比2. 2%減。

2019年1～5 月ベラルーシの輸出高は164億42
10万ドル(昨年対比2. 9%減)、輸入高は162億27
50万ドル(昨年対比1. 4%減)、貿易高は326億68
70万ドル(昨年対比3. 9%減)

(7/10 ベルタ通信)

●財務省、「中国との融資交渉は妥結段階にある」

アンドレイ・ベルカベツ財務次官は、「ベラルーシのマ
クロ経済と銀行セクターの概要」と題する会議で、「期
初に予定していたロシアからの融資は後ろ倒しとなっ
ており、代替案として見つけた中国からの融資は、現
在最終妥結段階にある」と公表

(7/9 ベルタ通信)

●ベラルーシ、バングラデシュへの塩化カリウム納入
契約を署名

ベラルーシカリ社とバングラデシュ農業発展公社は、
450トンの塩化カリウム輸出契約につき署名を行っ
た。

(7/8 ベラパン通信)

(了)